



佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



2021年
5月号

教職大学院での学びも1か月が過ぎ、大学院生活にも慣れてきました。グループワークを取り入れた演習中心の授業や院生の発表による授業も増え、院生同士の仲も深まってきています。共通必修科目の発表は、所属コースを問わず、学部卒業生等学生（以下、ストマス）と現職教員等学生（以下、現職）が、ペアまたはグループになって行っています。発表の準備や授業を通して、ストマスは現職院生から学校現場での経験談を聞くことができるので、とても勉強になります。また、現職院生はストマスの意見から、新たな視点を得ています。お互いに刺激を受け合いながら、自分の学びを深めることができるのは、教職大学院だからこそその貴重な経験だと思い、日々励んでいるところです。今回は、各コースでどんなことを学んでいるのかを中心に紹介します。

授業実践探究コース



M1（院生1年生）は、9月から始まる基盤実習に向けて、各自、実習校への挨拶にうかがい始めました。実習に向けて授業研究をしたり、まだ出会っていない児童・生徒のことを考えてみたりと、段々と実習への実感が高まってきています。子どもたちにより良い授業が行えるよう、日々の研究に励んでいきます。（ストマス）

これまで実践してきた授業を振り返りながら、今後の研究の足場となる理論を探すべく、先行研究の論文を読んでいます。入学する前に考えていた研究テーマから大きく変わりそうではありますが、7月に行われる研究計画発表会に向け、見直しを行っているところです。これまでと全く違う環境でまだ慣れないところもありますが、これを良い機会と捉え、多くのことを学びたいと思います。（現職）

子ども支援探究コース

今年度の子ども支援探究コースは、特別支援教育系現職2人、生徒指導・教育相談系現職2人の計4人です。今は、授業のレポートや担当する発表準備に追われていますが、達成感や充実感を味わいつつ、二度とないであろう大学院生活を満喫しています。校種を越えて様々な情報交換ができるので、自分の研究だけでなく幅広く学ぶことができます。コースの5人の先生方は、みなさん素敵で、私たちの相談や悩みを受け止めてくださっています。コロナが落ち着いた時には、全員で気兼ねなく集まりたいと思いながら日々頑張っています。（現職）



教育経営探究コース



8月下旬～9月に行われる関係機関実習に向けて、現任校の分析を行いながら、来年度の探究実習の研究テーマを模索しているところです。大学院2年目の現任校における実習と大きく関わるテーマであるので、授業や文献での学びを通して、現任校の分析を行いながら、学校現場が抱える課題を深く把握しようとしているところです。（現職）